

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400146		
法人名	株式会社さくら		
事業所名	グループホーム稗原さくらユニット自己評価及び外部評価結果		
所在地	島根県出雲市稗原1724番地		
自己評価作成日	令和 5 年 2 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和5年 5 月 18 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社ケーエヌシー
所在地	島根県松江市黒田町40番地8
訪問調査日	令和 5 年 2 月 27 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・企業理念は「共に喜び・共に悲しみ・共に生きる 地元地域に密着した施設づくりを目指します」。
 ・四季に応じた行事を企画し、実施をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中山間地にあつて、避難場所は自然災害時に迅速な対応がとれる目の前にあり、四季には癒やされる自然環境に立地している。企業理念は事業所理念として、ケア目標や指針となって意識付けられ共有し、本人本位にケアサービス提供が実践されている。コロナ禍では、地域との交流は現在行われていないが、交流行事再開はコロナ禍収束を待っている。ホーム周辺の散策等や誕生日行事等は手紙等で家族に情報が提供されて、ケアの「安心」を支援している。職員会議ではカンファレンスを行い、コロナ禍での運営推進会議は書面実施のメンバーからはアドバイス等の返信があり、丁寧なケアに活かされている。外出支援は、かかりつけ医受診の家族同行の際にお願いしている。食事は畑作の収穫物さつま芋等も調理し、誕生日等の行事食も採り入れ、食欲を高める献立となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える場所に理念を掲示し共有できるようにしている。	玄関に掲示の「共に喜び、共に悲しみ、共に生きる」の事業所理念を職員は共有し、安全を第一に「共に」を大切に「家族的」対応を常に意識ながらケアサービスに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナ等であり交流は制限している状況で収束等してくれば、以前様に再開したい。	コロナ禍であり地域とのつきあいは、今は行っていないが、以前のように交流できる機会を待ち望み再開を期待している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議資料送付などを通して、現状できる範囲で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナ感染リスクある為書面をもって地域の関係先にファックスにて送付し、意見を返信していただきサービス向上に活かしている。	コロナ禍の中、殆ど代わらない地域関係者による運営推進会議は、FAXにより2ヶ月に1回の書面開催は、細かく市役所等からのアドバイスや情報の返信を受けて安心できるケアサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	都度連絡を取り、協力関係を築くように取り組んでいる。	市役所には頻繁に出掛けて又、電話やファックスにより、利用者のケア等を報告し、アドバイスを受け、情報を得るなど協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	都度、身体拘束委員会を行い情報を元に検討し、身体拘束をしないケアを目指している。身体拘束をしないといけない場合は、ご家族様に説明し承諾を得る。	身体拘束委員会は、月に1度開催し、職員全員が関わり拘束についての勉強会を計画実施している。言葉遣いは気付いたら注意をしあうケアに努めている。センサーマット使用は、家族と相談し承諾を得ている。玄関の施錠はリモートであるが行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内でも研修を行い、学ぶ機会を持ち情報を共有し虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にて研修できる機会を持つようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退所時や改定時等に説明を行い疑問には随時説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等あれば検討を行い改善できるようにしている。	2ヶ月に1回の暮らしの様子や体調を写真付きで手紙にしたり電話をしたりする時に要望を聞き取り、家族同行受診時には、パット等に気が付いたことを言って貰い、食事の見直しの要望は運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の全体カンファレンスや会議等を行いノート等を活用し行っている。	月に一度の職員全員で行うカンファレンスや職員会議では、送りノートを活用して意見や提案を話し合うことになっているが、コロナ禍のためにイベント等の行事は出来なかったため、反映させる機会はなかった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	意見を出しやすい環境を作り、生き活きと働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナもあり外部ではなく、施設内研修を行い学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ等により現在は行えていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に家族様や支援者様等から情報を収集し、本人様とも話し関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前よりお話を聴き、希望されている事に最大限添えるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、家族様や支援者の方等より情報を収集し必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒にできることは一緒に行い、他愛のない会話等をするなどコミュニケーションを取り関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と必要に応じて連絡を取り受診等の協力をしながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナにより現状制限をしている状況にあり、収束を見て再開していく。	コロナ禍では、馴染みの友人や知人の訪問は制限され窓越し面会となっているが、以前の様に馴染みの場所との関係が再開できることを待っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係を円滑に行う為、一人一人の利用者の状況を把握し、必要に応じて間に入りなるべく円滑に関われる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等あればできる範囲で支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の意向や生活状況を把握しまた、家族様等からも必要に応じて情報をいただき検討を行っている。	本人の思いや意向は、日常的に把握できない時には、日頃の会話の中に身振り手振りのジェスチャーや耳の遠い場合は筆談する等の選択をし、必要な時は家族から電話で情報を得て本人本位に意向を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族様よりお話を聴き情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状態を観察し、気づいた事をノートなどファイルを活用し全職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の様子を踏まえ、関係者の方と話し合いの場を設け、本人様に適した介護計画を立てる。	本人の日々の様子は家族や医師、職員も入って話し合いの場を設け、日々のカンファレンス状況や送りノートの様子も知らされて、担当者は月1回の会議を踏まえ現状に即した適切な介護計画をたてている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録等を使用し計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて検討を行いできるだけ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ等の影響により、今は制限しており収束したい再開を検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と協力し、日頃の体調管理を行い細目に報告をし必要に応じて他の医療機関も受診している。	家族対応のかかりつけ医には体調管理をこまめに報告している。協力医の内科、皮膚科及び歯科も受診対応ができています。特別な受診は事業所対応である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃の体調の中で変化があれば、かかりつけ医の看護師に相談し支援を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院等から情報を収集し、退院時にも相談等を行い努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、家族様、本人様、医師と話し合いを行い、できる限りの支援を行っている。	看取り支援は複数回にわたり経験され問題点も明らかになっている。入所時に話をする看取り支援は、コロナ禍のターミナルケアでは家族の面会や泊りが許されている。夜間は1時間毎に職員は看取りケアを行い、チーム支援は協力医や家族も関わっている。	看取り経験からの課題を検討し、看取りマニュアルの改善を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員がマニュアルを閲覧する事と年一回実践的な訓練及び研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際、夜間の避難訓練を想定した訓練を行っている。自動通報装置により地域の消防団などにも協力を要請できる。	避難訓練等は消防署の承認を得て、夜間も想定し年2回行い、自動通報装置は自治会や地区の消防団には連絡が行き、協力体制ができています。避難場所に誘導の訓練は部屋の名札を外し安全を確保し行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等を施設内でも行い対応している。	利用者の人格尊重やプライバシー保護の研修を行い、言葉かけが誇り等を損ねない対応でケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で会話等から思いを聴き支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活の中で安全に配慮し、できる限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	例えば髪が染めたいと要望があれば、美容師さんに来てもらったりしていたりと支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は日常の中で何か食べたいと話された物を献立の一品に入れたり、下準備の一部や食器拭きなど片付けをできる範囲で手伝っていただいている。	食事のメニューは、畑作収穫物や利用者の食べたい物「カレーやおはぎ」も献立の一品に入れて、行事食も楽しみ食欲を高め、下準備や食器拭き等は職員と利用者は共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量の確認や食事形態を考慮し一人一人にあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人のできる能力や口腔状態に応じて口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行い、安全に配慮し必要に応じて介助を行っている。	トイレ誘導は、食事の前とかに行い又、およそ2時間から2時間30分置きに個々に応じて介助も行う排泄を支援している。排便は、パターン表により、排尿はケースに応じて誘導を行い失敗なく安全に支援している。	で
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃の体操やヨーグルトや牛乳を使用し腸活を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表を使用し入浴支援を行っているがその日の体調や本人様だけで日時を変更したり柔軟に対応している。	入浴表により最低週2回、おおよそ午前中の入浴が支援されているが、人により午後入浴も行われている。体調の具合や本人の希望に添い日時の変更も行い、風呂での会話は楽しい時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々に応じて話を傾聴等し安心していただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報を共有し日々の変化を観察し、変化があれば医師に報告し支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報提供書や家族様より生活歴等と確認しできる範囲で役割をもつていただき、季節ごとに行事を行い気分転換等を図る。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	新型コロナの為、制限をしており収束みられれば再開を検討している。	外出支援は新型コロナウイルス感染で制限されているが、コロナ禍が収束すれば再開する検討をしている。今は散歩とか草取りを行い又、かかりつけ医受診の際には、同行家族には、外出もかねての受診をお願いしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止のためご本人様での管理は行わないようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様のご都合等を考慮して対応している。難しい場合は徐々に他の話題に切り換えて行き気分を紛らわしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下やホールなどに行事物を掲示したりし工夫し心地よく過ごせるように支援している。	廊下やホール等の共用空間は、生活感や季節感ある行事の作品が掲示され、ソファも配置されて、居心地よく過ごせるように支援されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間でソファや椅子があり気に入った場所や仲のいい人同士で過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、自分の使用していたものや写真、作品等が置いてあり過ごしやすくなるように工夫し支援している。	居室には、使い慣れた物や好みの写真とか趣味の作品等が持ち込まれて、居心地よく過ごせる支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ等には名札を貼り飾りを付けてわかり易い様に工夫している。		